

ヨシユア
聖徒伝 67

「過ちと 悔い改めと」

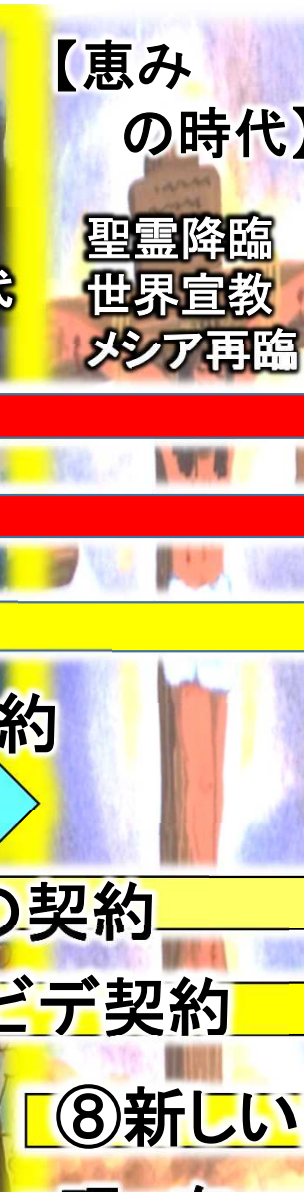
ヨシユア記7～9章 アカンの罪・アイ攻略

【今日のアウトライン】

- 0. イントロダクション
- I. アカンの罪 7章
- II. アイ攻略 8章
- III. ギブオンの策略 9章
- IV. まとめと適用

主は聖なる方であるということ
主をおそれ、御前にひれ伏そう





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

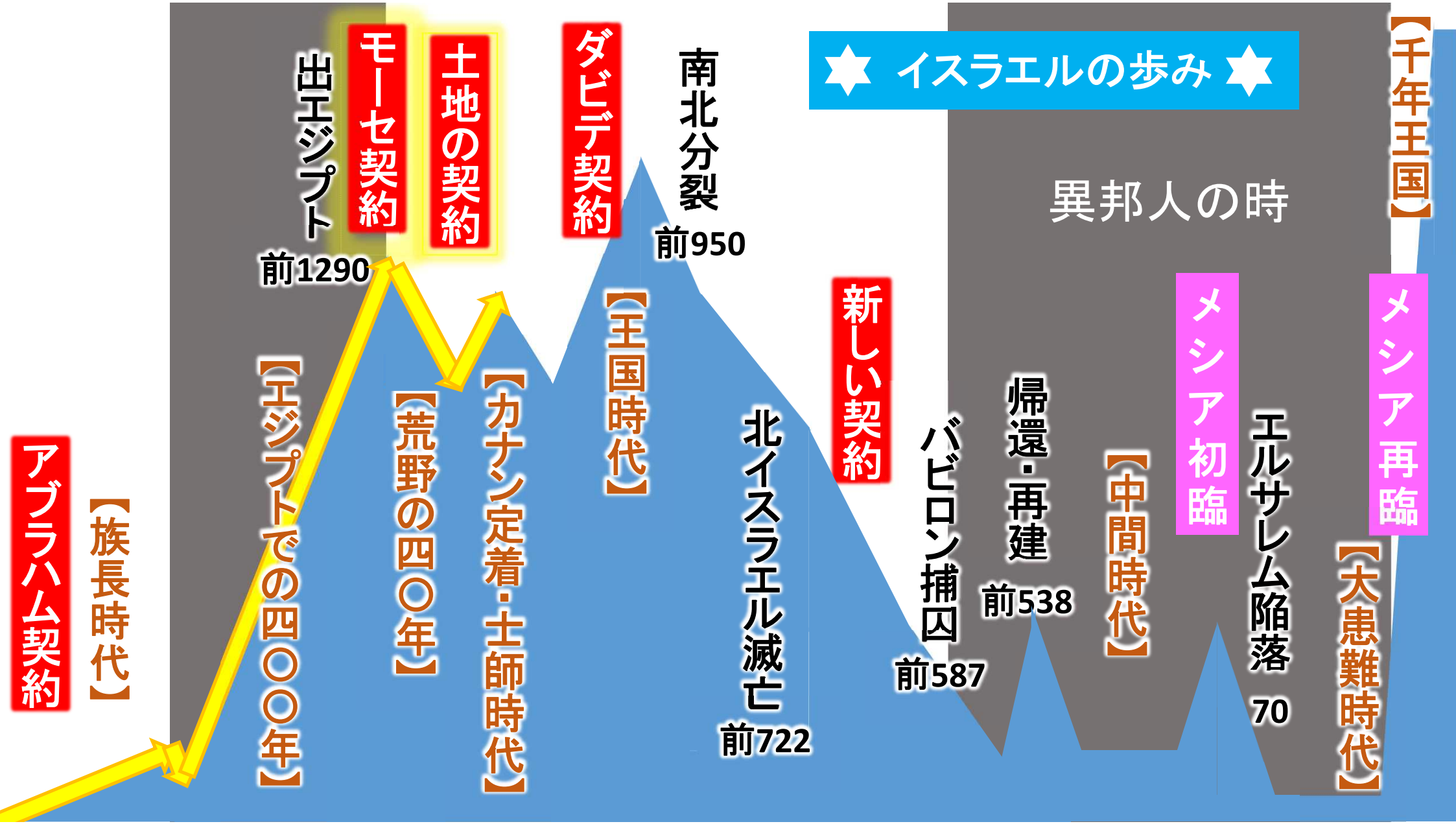
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡
前722

新しい契約

バビロン捕囚
前587

帰還・再建
前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落
70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

南北分裂
前950

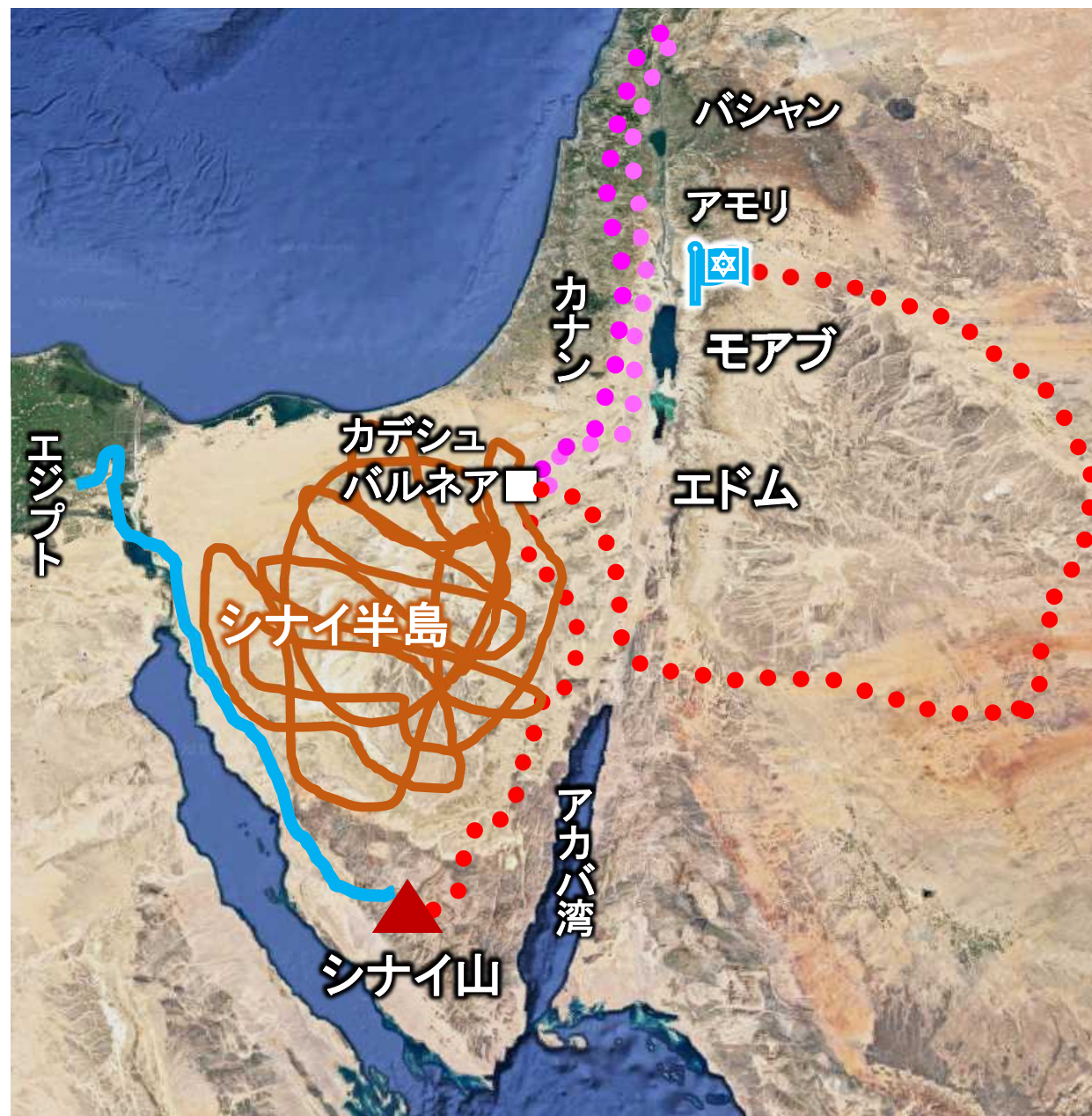
【イスラエルの荒野の40年】

■ エジプトを脱出、シナイ契約を結び、律法を与えられ、神の民となったイスラエル。

■ しかし、神に反逆し、その世代の者は、荒野で死に絶えた。

■ 40年の放浪の末、約束の地ヨルダン川東岸に到達した。

■ カナンの東部を征服し、いよいよヨルダン川を渡る。



【ヨシュアのプロフィール】

- エフライム族出身(民13:8)。主エジプトの時、40歳。
- モーセの従者(ヨシ1:1)。モーセから訓練を受けた。
- 最初の戦い(vsアマレク)で指揮を執った(出17章)。
- モーセと共にシナイ山に上った(出32:17)。
- ホセア(救い)からヨシュア(主は救い)へ改名(民13:16)
- カデシュ・バルネア事件では、12人の斥候の一人として約束の地に派遣。カレブと二人、進軍を訴えた。この二人だけが約束の地に入ることを許された。
- 80歳で、モーセの後継者となった。
- 110歳でその生涯を終えた。

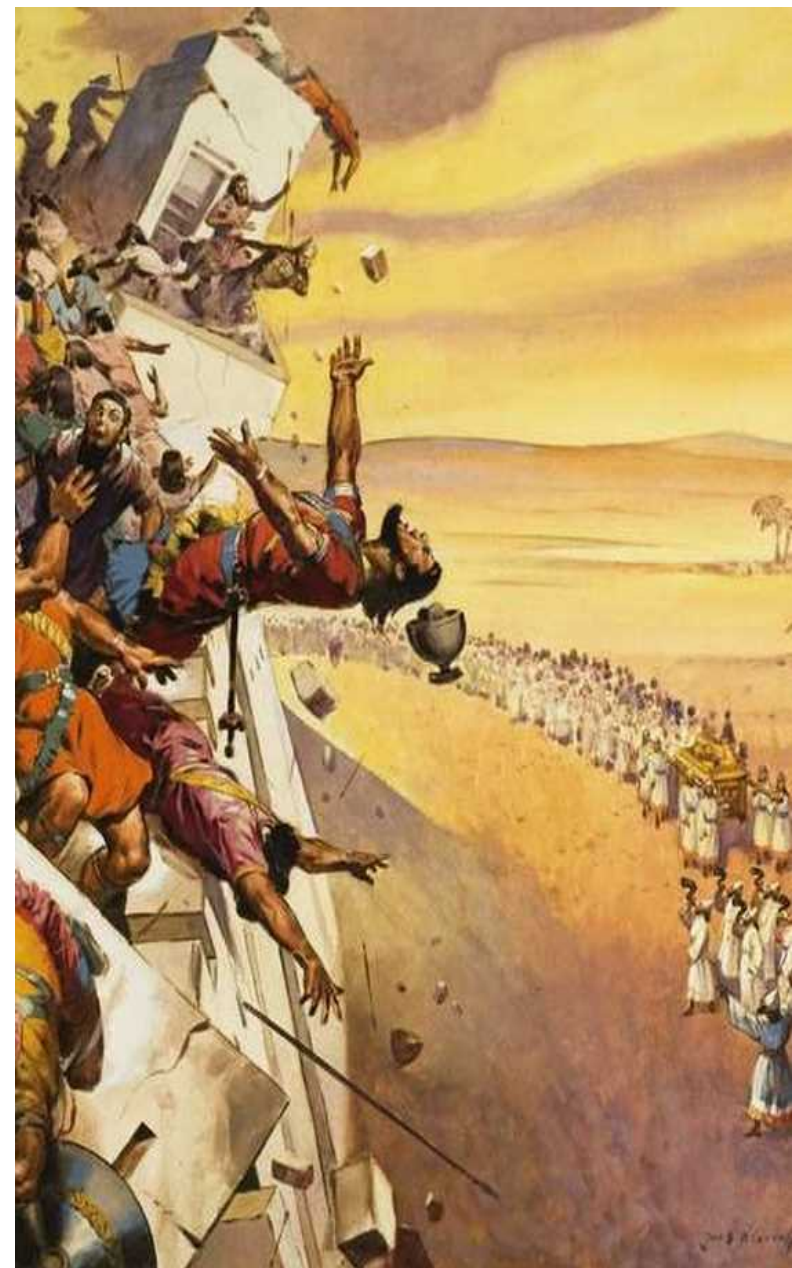


【イスラエル、ヨルダン川を渡る】

■ 主に導かれ、ヨルダン川を渡ったイスラエル。割礼により、約束の民のしるしを身に刻み、土地の産物を味わい、40年ぶりの過越祭を祝った。

■ エリコとの戦いは、主ご自身が戦われた。主の命令に忠実に従ったとき、城壁は崩れ、完全な主の裁きがエリコにくだった。

■ 主を信じた遊女ラハブとその家族だけが救われた。

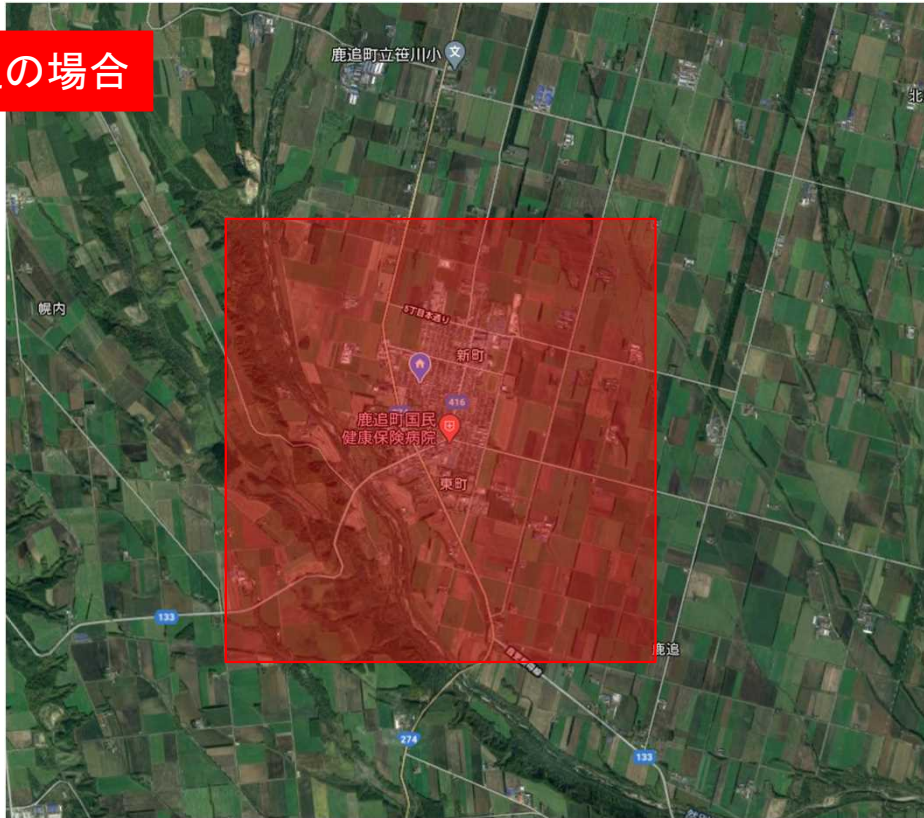


【カナンから見たイスラエルとは？】

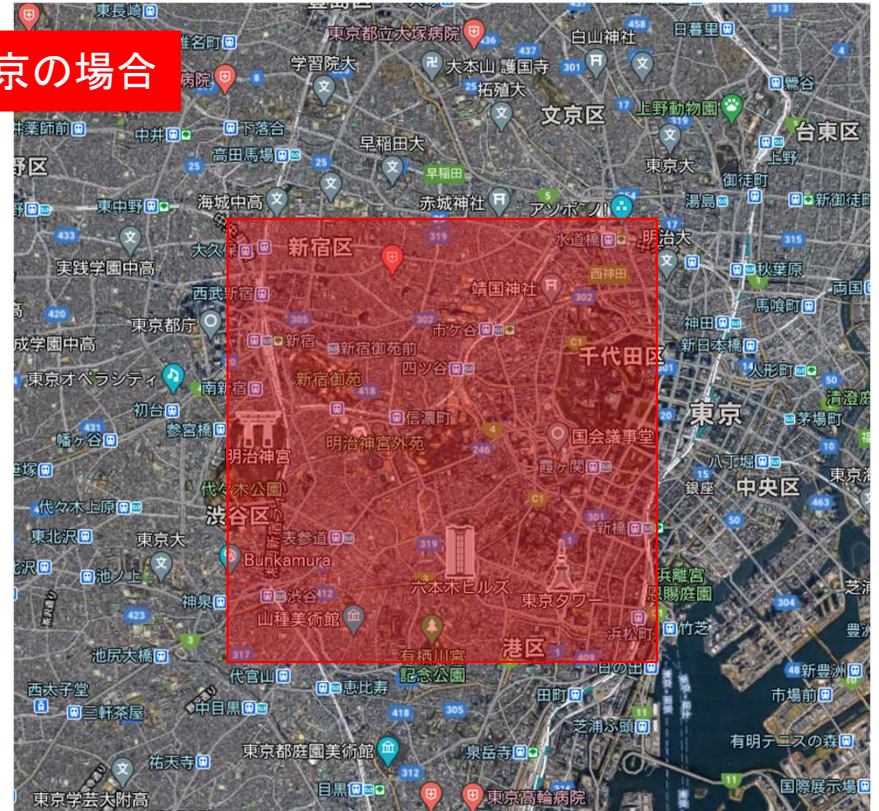
イスラエルの民の野営の面積は？

60万世帯 × 1世帯(3~4名) × 36m²(10坪) = 21,6km² 約4,6km四方

鹿追の場合



東京の場合



エリコ～ヨルダン川の辺りでは？

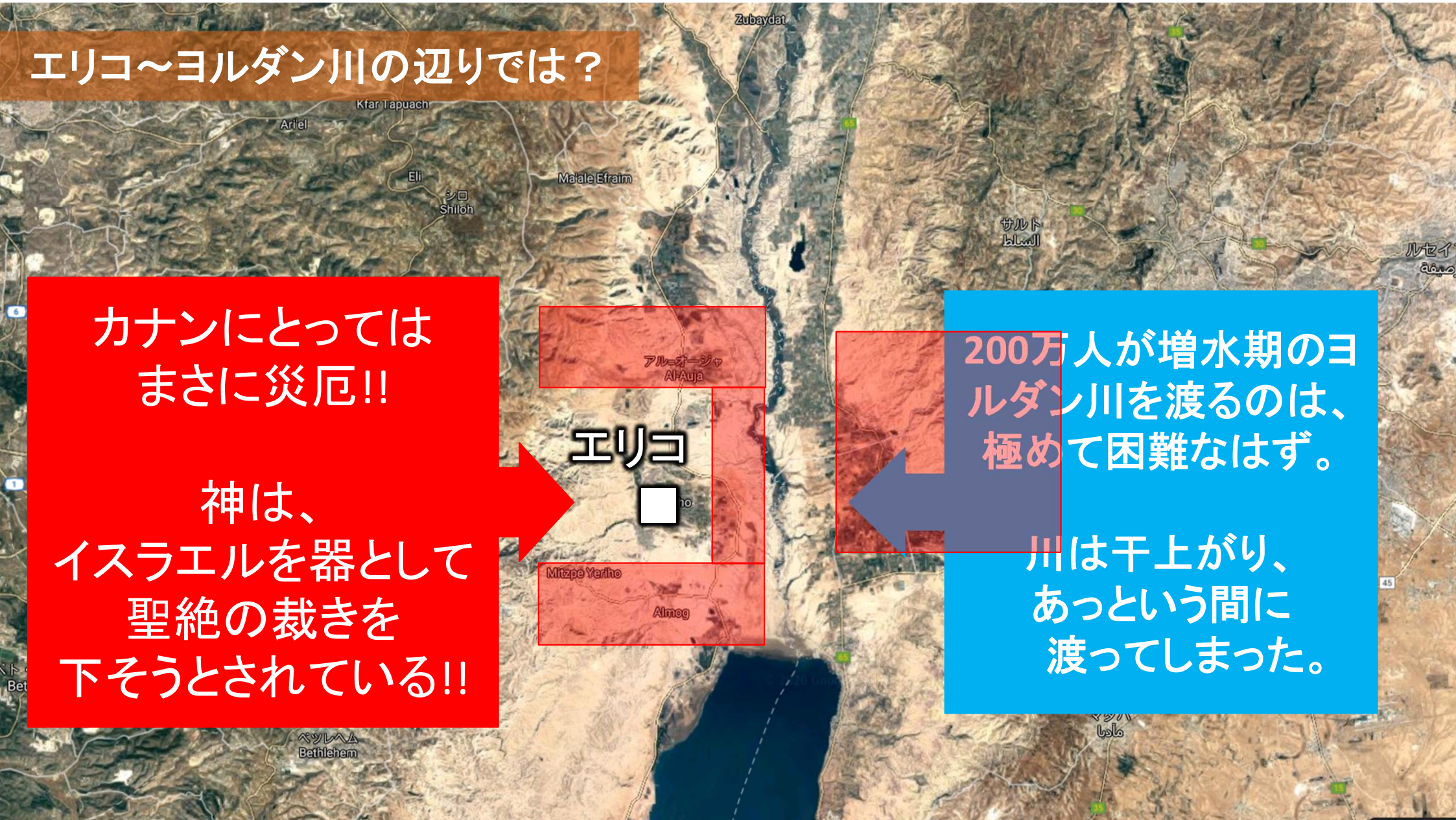
カナンにとっては
まさに災厄!!

神は、
イスラエルを器として
聖絶の裁きを
下そうとされている!!

エリコ

200万人が増水期のヨ
ルダン川を渡るのは、
極めて困難なはず。

川は干上がり、
あっという間に
渡ってしまった。



【聖書から確認したい、神の裁きの原則】

- 大洪水の裁きでは、120年の猶予期間があり、ノアを通して救いの道が示され、悔い改めが促された。
- ソドムには、信仰者ロトがいた。ソドムの民は、神の友アブラハムによって、帝国の虜囚から助け出された。滅びの直前には、二人の天使が使わされた。
- 神は、裁きの前に、必ず警告を発せられ、悔い改めのための途方もない猶予期間を与えられる。
- ノアやロトが救われたように、ただ主に信頼すれば、神の怒りの裁きから救われる。



【カナンにも適用される神の裁きと救いの原則】

■カナンの民は、唯一の神を知っていた。

- ★ノアから続く伝承があっただろう。
- ★ヨブなど、アブラハム以前の信仰者達の存在。
- ★アブラハムにより帝国の侵略から助け出された経験。
- ★ソドム、ゴモラの滅びの経験、残る痕跡。
- ★エドムなどアブラハムの子孫達も隣接し、ミディアン人の祭司エウレル(イテロ)のような信仰者もいた。
- ★エリコの遊女ラハブも、イスラエルの神を知っていた。
エジプトでのイスラエルの神の奇跡も聞いていた。
- ★ヨルダン川が干上がった様子をその目で見た。



【カナンにも適用される神の裁きと救いの原則】

■ カナンの民は、悔い改めの猶予期間を与えられていた。

★ イスラエルがエジプトですごした430年＋荒野の40年。

➡ この470年は、カナンに与えられた猶予期間。

★ 悔い改めるに十分過ぎるほどの時が与えられていた。

■ 実際に、悔い改めて救われた者がいた。

➡ ラハブは、イスラエルの神を恐れ、信じて救われた。

■ カナンへの主の裁きは、もはや免れることはできないが、一人一人には、救いの道が残されている。



I. アカンの罪

ヨシュア記7章



【アカンの裏切り】 ヨシュア7:1～2

しかし、イスラエルの子らは聖絶の物のことで主の信頼を裏切った。ユダ部族のゼラフの子ザブディの子であるカルミの子アカンが、聖絶の物の一部を取った。*それで、【主】の怒りがイスラエルの子らに向かって燃え上がった。

ヨシュアは部下をエリコからベテルの東、ベテ・アベンの近くにあるアイに遣わし、彼らに言った。「上って行って、あの地を偵察せよ。」部下たちは上って行って、アイを偵察した。

* 神の裁きの器として用いられるイスラエルには、主に完全に従い通すことが求められる!!



【アイでの敗北】 ヨシュア7:3～5

彼らはヨシュアのもとに帰って来て言った。「民をみな上って行かせるには及びません。二、三千人ぐらいを上らせて、アイを討たせるとよいでしょう。彼らはわずかですから、民をみな送って骨折らせるには及びません。」

そこで民のうち、およそ三千人がそこに上って行ったが、彼らはアイの人々の前から逃げた。

アイの人々は彼らの中の三十六人を打ち殺し、彼らを門の前からシェバリムまで追って、下り坂で彼らを討った。民の心は萎え、水のようにになった。

■ エリコの人口は1万2千人 ➡ 攻城戦の鉄則は戦力3倍



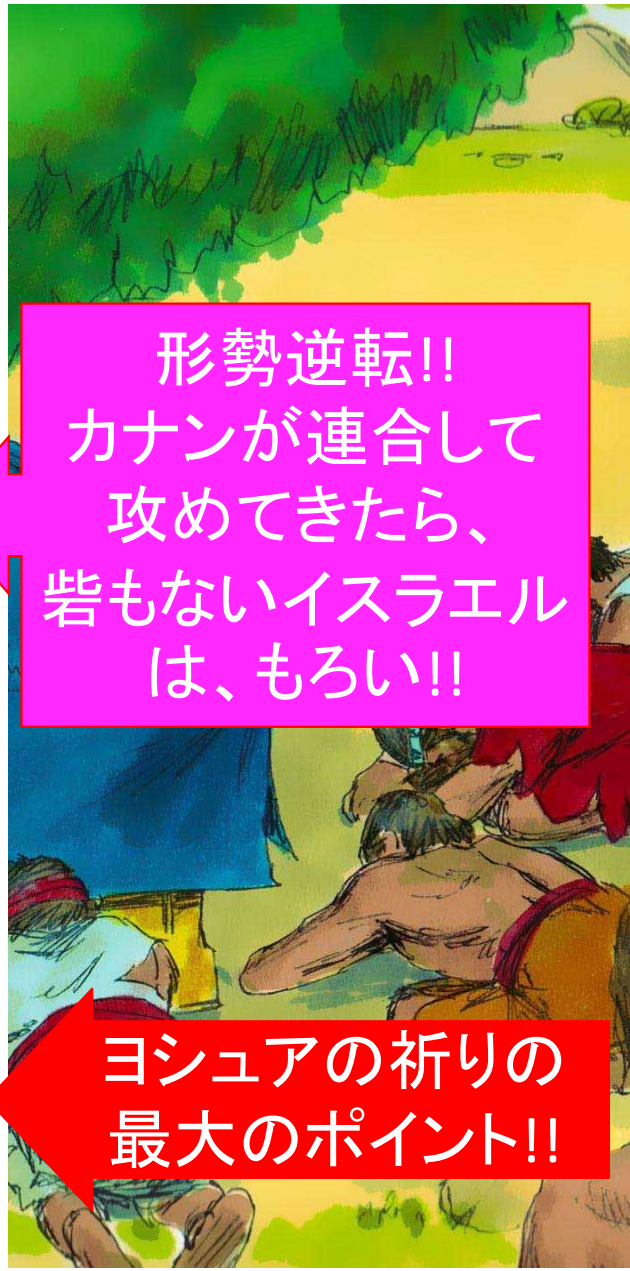
兵力が少なすぎ。
いくらなんでもなめすぎ

【ヨシュアの嘆き】 ヨシュア7:6～9

ヨシュアは衣を引き裂き、イスラエルの長老たちとともに、【主】の箱の前で夕方まで地にひれ伏し、自分たちの頭にちりをかぶった。

ヨシュアは言った。「ああ、【神】、主よ。あなたはどうして、この民にヨルダン川をあえて渡らせ、私たちをアモリ人の手に渡して滅ぼそうとされるのですか。私たちは、ヨルダンの川向こうに居残ることで満足していたのです。ああ、主よ。イスラエルが敵の前に背を見せた今となっては、何を申し上げることができるでしょう。

カナン人やこの地の住民がみな、これを聞いて私たちを攻め囲み、私たちの名を地から断ってしまうでしょう。あなたは、あなたの大いなる御名のために何をなさるのですか。」



形勢逆転!!
カナンが連合して
攻めてきたら、
砦もないイスラエル
は、もろい!!

ヨシュアの祈りの
最大のポイント!!

【求められる契約の遵守】 ヨシュア7:10～13

【主】はヨシュアに告げられた。「立て。なぜ、あなたはひれ伏しているのか。イスラエルは罪ある者となった。彼らはわたしが命じたわたしの契約を破った。聖絶の物の一部を取り、盗み、欺いて、それを自分のものの中に入れることまでした。

だから、イスラエルの子らは敵の前に立つことができず、敵の前に背を見せたのだ。彼らが聖絶の者となったからである。あなたがたの中から、その聖絶の物を滅ぼし尽くしてしまわないなら、わたしはもはやあなたがたとともにはいない。

民を聖別せよ。そしてこう言え。あなたがたは、明日のために自らを聖別しなさい。イスラエルの神、【主】がこう告げられるからだ。『イスラエルよ、あなたの中に聖絶の物がある。あなたがたがその聖絶の物を、あなたがたの中から取り除くまでは、敵の前に立つことができない。』



イスラエルに
徹底して
求められるのは、
神の民としての
契約の遵守

【告げられる神の厳しい裁き】 ヨシュア7:14～15

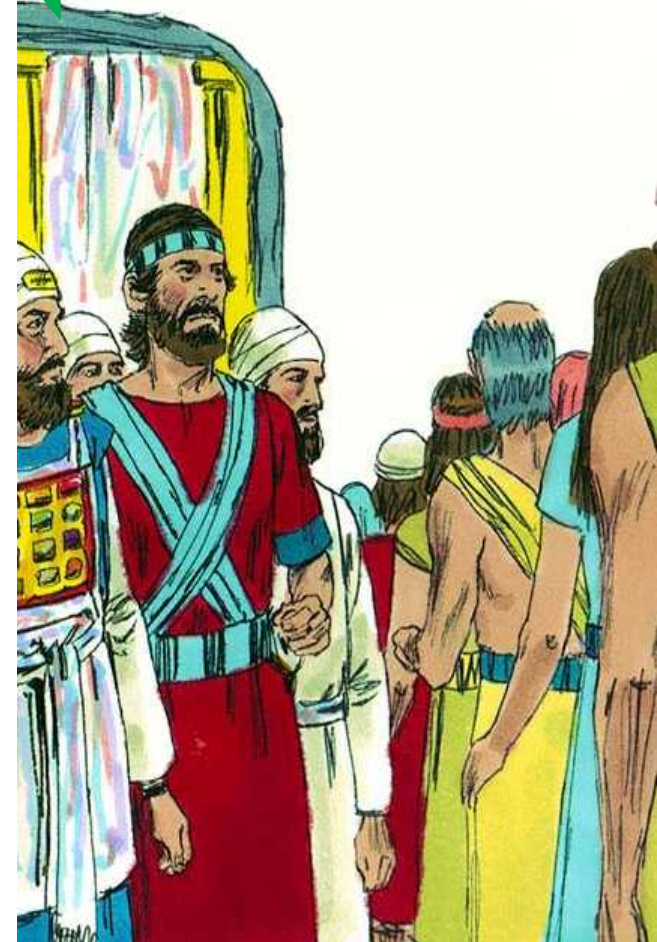
「明日の朝、部族ごとに進み出よ。【主】がくじで取り分ける部族は氏族ごとに進み出、【主】がくじで取り分ける氏族は家族ごとに進み出、【主】がくじで取り分ける家族は男一人ひとり進み出よ。

聖絶の物のことでくじで取り分けられた者は、彼も彼に属するすべてのものも、火で焼かれなければならない。彼が【主】の契約を破ったからであり、彼がイスラエルの中で恥辱となることをしたからである。』」

* 聖絶の戦いをけがした者は、神に聖絶される。

➡ 神の裁きの器として用いられることの厳しさ!!

くじは、ウリムとトン
ミムによる神託?!



【くじの結果】 ヨシュア7:16～18

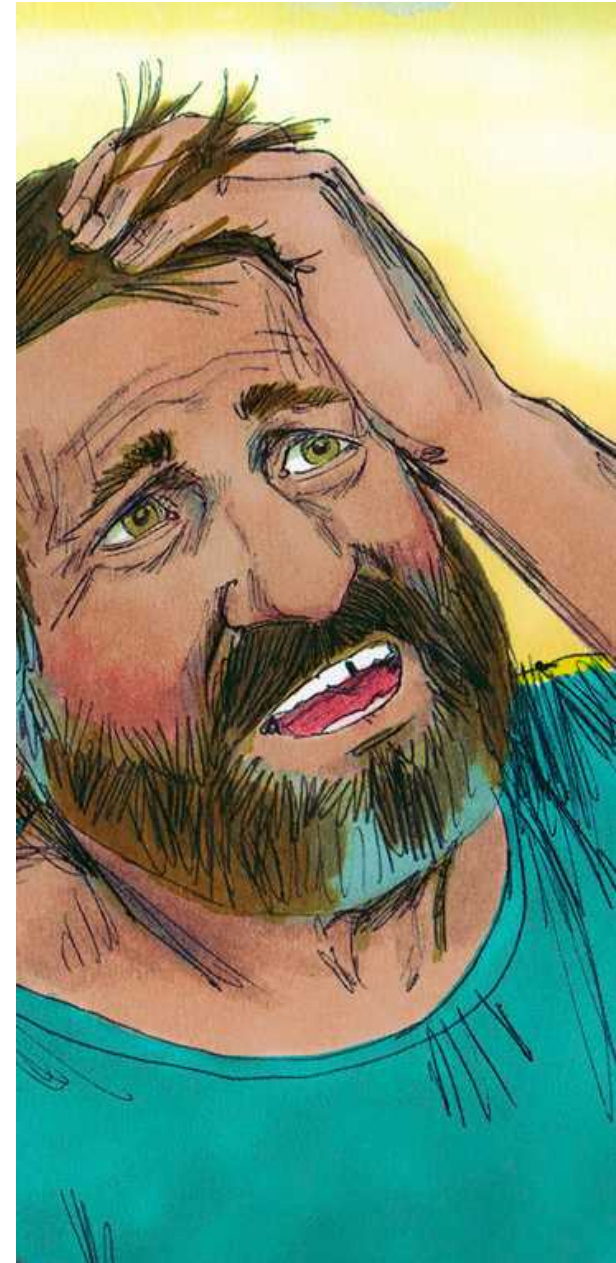
翌朝ヨシュアは早く起き、イスラエルを部族ごとに進み出させた。ユダ部族がくじで取り分けられた。

ユダの諸氏族を進み出させると、ゼラフ人の氏族がくじで取り分けられた。ゼラフ人の氏族を男一人ひとり進み出させると、ザブディがくじで取り分けられた。

ザブディの家族を男一人ひとり進み出させると、**ユダ部族のゼラフの子ザブディの子カルミの子のアカン**が、くじで取り分けられた。

■アカンは、あれほどの主の御業を目の当たりにしながら、主に従わなかった。➡この罪の重さ。

※アナニアとサツピラとも共通した状況(使5章)



【アカの告白】 ヨシュア7:19~22

ヨシュアはアカに言った。「わが子よ。イスラエルの神、【主】に栄光を帰し、主に告白しなさい。おまえが何をしたのか、私に告げなさい。私に隠してはいけない。」

アカはヨシュアに答えた。「確かに、私はイスラエルの神、【主】に対して罪を犯しました。私は次のようなことをしました。私は分捕り物の中に、シナルの美しい外套一着と、銀二百シェケルと、重さ五十シェケルの金の延べ棒一本があるのを見て欲しくなり、それらを取りました。それらは今、私の天幕の中の地面の下に隠してあり、銀もそこにあります。」

そこでヨシュアは使いたちを送った。彼らは天幕に走って行った。すると、それらはアカの天幕に隠されていて、銀もその下にあった。



真実が明らかにされ、
主に着せられた汚
名がぬぐわれること

【アカンに下された裁き】 ヨシュア7:23～26

使いたちはそれらを天幕の中から取り出し、ヨシュアとすべてのイスラエルの子らのところに持って来て、【主】の前に置いた。ヨシュアは全イスラエルとともに、ゼラフの子アカンと銀、外套、金の延べ棒、および彼の息子、娘、牛、ろば、羊、天幕、それに彼のすべての所有物を取って、アコルの谷へ運んだ。

ヨシュアは言った。「なぜ、おまえは私たちにわざわいをもたらしたのか。【主】は今日、おまえにわざわいをもたらされる。」全イスラエルは彼を石で打ち殺し、彼の所有物を火で焼き、それらに石を投げつけた。

人々はアカンの上に石くれの大きな山を積み上げた。今日もそのままである。【主】は燃える怒りを収められた。それで、その場所の名はアコルの谷と呼ばれた。今日もそうである。



Ⅱ. アイ攻略

ヨシュア記8章

誘惑の山、エリコ、ヨルダンの平野を臨む



【ヨシュアへの主の激励】 ヨシュア8:1～2

【主】はヨシュアに言われた。「**恐れてはならない。おののいてはならない。**戦う民をすべて率い、立ってアイに攻め上れ。見よ、わたしはアイの王と、その民、その町、その地をあなたの手にと与えた。

あなたがエリコとその王にしたとおりに、アイとその王にもせよ。その分捕り物と家畜だけは、あなたがたの戦利品としてよい。あなたは町の裏手に伏兵を置け。」

* **主ご自身が、ヨシュアを再び奮い立たせる。**

■ **この戦いは主の戦いだと身をもって味わい知らされていく、ヨシュアとイスラエル。**



【主の命令に従って】 ヨシュア8:3～6

そこでヨシュアは戦う民すべてとともに、アイに上って行くために立ち上がった。ヨシュアは三万人の勇士を選んで夜のうちに派遣し、彼らに命じた。「見よ、あなたがたは町の裏手から町に向かう伏兵だ。町からあまり遠く離れないで、みな身構えていなさい。

私と、私とともにいる兵はみな町に近づく。アイの人々がこの前と同じように、私たちに立ち向かって出て来たら、私たちは彼らの前から逃げることにする。

彼らは私たちを追って出て来るので、私たちは彼らを町からおびき出すことになる。彼らは『この前と同じように、われわれの前を逃げて行く』と言うだろうから。私たちは彼らの前で逃げることにする。」



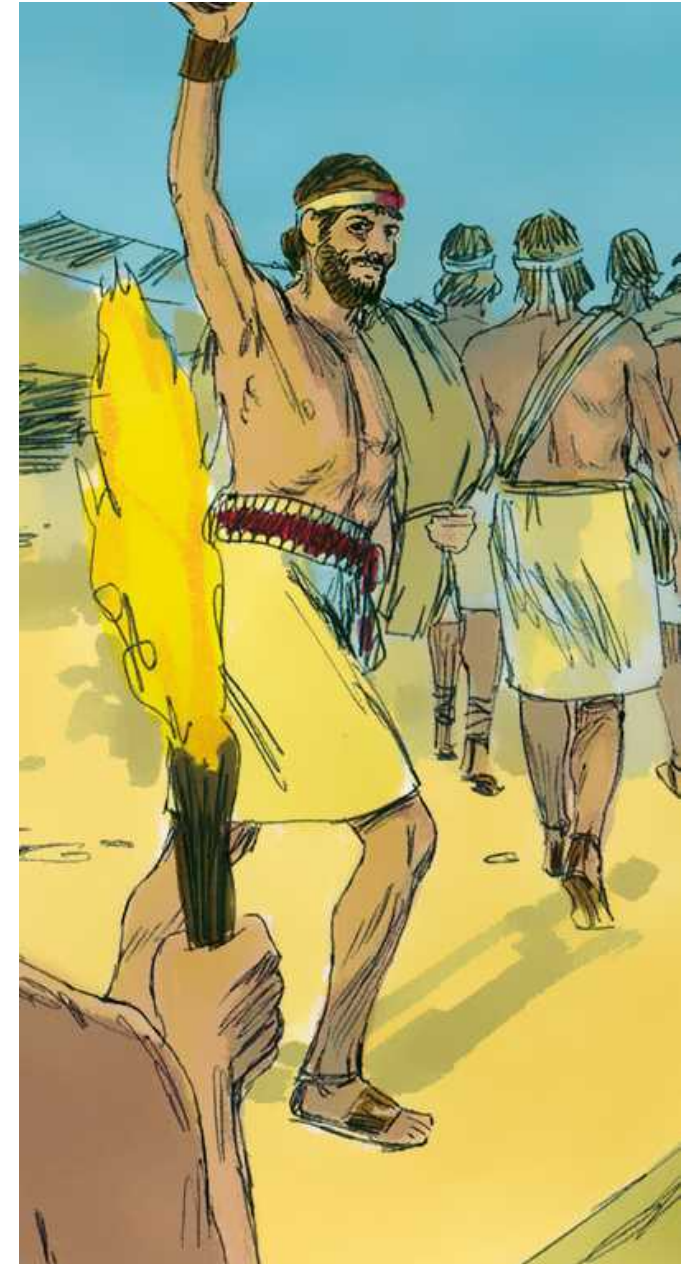
【戦略を支える主への忠誠】 ヨシュア8:7～9

「あなたがたは伏せているところから立ち上がり、町を占領せよ。あなたがたの神、【主】がその町をあなたがたの手に渡される。その町を攻め取ったら、その町に火を放て。【主】のことばどおりに行うのだ。見よ、私はあなたがたに命じる。」

ヨシュアは彼らを派遣し、彼らは待ち伏せの場所へ行き、ベテルとアイの間、アイの西側にとどまった。ヨシュアはその夜、兵とともに夜を過ごした。

* 主は多彩な命令によって、民の忠実を図られる。

➡ その都度、主の命令に従っているのか？



【アイに上るヨシュア】 ヨシュア8:10～13

翌朝ヨシュアは早く起きて、兵を召集し、イスラエルの長老たちとともに、兵の先頭に立ってアイに上って行った。彼とともにいた戦う民はみな、上って行った。彼らは町の前に近づき、アイの北側に陣を敷いた。彼とアイの間には谷があった。

彼は約五千人を取り、ベテルとアイの間、町の西側に伏兵として配置した。

兵は町の北側に全陣営を置き、町の西側にはその後陣を置いた。ヨシュアはその夜、谷の中に下って行った。

■ 主の今回の命令に従い、戦略が進められていく。



【戦いの始まり】 ヨシュア8:14～17

アイの王がそのことに気づくと、町の男たち、王とその兵はみな、急いで朝早く起き出し、イスラエルに立ち向かって戦うために、アラバの手前の決めておいた場所に出て来た。しかし、王は町の裏手に伏兵がいることを知らなかった。ヨシュアと全イスラエルは彼らの前で打たれるふりをし、荒野への道を逃げた。アイにいた兵はみな彼らの後を追うために呼び集められ、ヨシュアを追撃し、町から誘い出された。そのため、イスラエルの後を追って出なかった者は、アイとベテル*に一人もいなかった。彼らは町を開け放しのまま捨てておいて、イスラエルを追撃した。なかった。
(*この地がベテルとも呼ばれていたことが分かる)



【モーセのように祈るヨシュア】 ヨシュア8:18～21

【主】はヨシュアに告げられた。「あなたの手にある投げ槍をアイの方に伸ばせ。*わたしがアイをあなたの手に移すから。」ヨシュアは手にある投げ槍を町の方に伸ばした。すると、伏兵はすぐその場所から立ち上がった。ヨシュアが手を伸ばすやいなや彼らは走り、町に入ってそれを攻め取り、ただちに町に火を放った。

アイの人々はうしろを振り返って見た。すると、町の煙が天に立ち上っていて、彼らには、どちらにも逃げる手立てがなかった。荒野へ逃げていたイスラエルの兵は、追って来た者たちの方に向き直った。

ヨシュアと全イスラエルは、伏兵が町を攻め取り、町の煙が立ち上るのを見たので、引き返してアイの人々を討った。

* アマレクの戦いでモーセは手を挙げて祈った(出17:9～16)



【成し遂げられた主の命令】 ヨシュア8:22～26

伏兵たちは町から出て来て彼らに向かった。そのため彼らは両側からイスラエルの挟み撃ちにあった。ヨシュアたちは、彼らを打ち殺し、生き残った者も、逃れた者も一人も残されないまでにした。しかし、アイの王は生け捕りにして、ヨシュアのもとに連れて来た。

イスラエルがアイのすべての住民を野で、すなわち彼らが追って来た荒野で殺したとき、アイの住民はみな一人残らず剣の刃に倒れた。全イスラエルはアイに引き返し、町を剣の刃で討った。その日、倒れた者は男女合わせて一万二千人、アイのすべての人々であった。

ヨシュアはアイの住民をことごとく聖絶するまで、投げ槍を差し出した手をもとに戻さなかった。



イスラエルは完全に主に従った!!

【主の戦いの戦果】 ヨシュア8:27～29

イスラエルは【主】がヨシュアに命じられたことばのとおり、その町の家畜と分捕り物だけを自分たちの戦利品とした。ヨシュアはアイを焼き、永久に荒れ果てた丘とした。今日もそうである。

さらに、ヨシュアはアイの王を夕方まで木にかけてさらし、*日の入るころ人々に命じた。それで彼らはその死体を木から降ろし、町の門の入り口に投げ捨て、その上に大きな石塚を積み上げた。今日もそうである。

*** 呪われた死ということ。➡王の邪悪さを示す結末。**

■ 何より主が勝ち取られたのは、イスラエルの信仰。



【果たされた主の命令】 ヨシュア8:30～32

それからヨシュアはエバル山に、イスラエルの神、【主】のために一つの祭壇を築いた。

それは、【主】のしもべモーセがイスラエルの子らに命じたとおり、またモーセの律法の書に記されているとおり、鉄の道具を当てない自然のままの石の祭壇であった。彼らはその上で【主】に全焼のささげ物を献げ、交わりのいけにえを献げた。ヨシュアはその場所で、モーセがイスラエルの子らの前で書いた律法の写しを、石の上に書いた。

* 呪いが置かれた山(申27章)

■ イスラエルは、すべての栄光を主に帰した。

律法を覚え、守り行うこと!!



【読み上げられる律法】 ヨシュア8:33～35

全イスラエル、その長老たち、つかさたち、さばき人たちは、寄留者もこの地で生まれた者も同様に、【主】の契約の箱を担ぐレビ人の祭司たちの前で、箱のこちら側と向こう側とに分かれ、半分はゲリジム山の前に、もう半分はエバル山の前に立った。それは【主】のしもべモーセが以前命じたように、イスラエルの民を祝福するためであった。その後、ヨシュアは、みおしえの書に記されているとおりに、律法のすべてのことばを、祝福ものろいも読み上げた。モーセが命じたすべてのことばの中で、ヨシュアが、イスラエルの集会全体、および女と子どもたち、および彼らの間で生活する寄留者の前で読み上げなかったことばは、一つもなかった。

*** 申27章の命令の実行。ゲリジム山には祝福が置かれた。**



Ⅲ. ギブオンの策略

ヨシュア記9章



【カナン諸民族の反抗とギブオン】 ヨシュア9:1～5
さて、ヨルダン川の西側の山地、シェフェラ、レバノン
に至る大海の全沿岸のヒッタイト人、アモリ人、カナ
ン人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の王たちはみな、こ
れを聞くと、ともに集まり、一つになってヨシュアおよ
びイスラエルと戦おうとした。

ギブオンの住民たちは、ヨシュアがエリコとアイに対
して行ったことを聞くと、彼らもまた策略をめぐらし、
変装をした。古びた袋と、古びて破れて継ぎ当てをし
たぶどう酒の皮袋をろばに負わせ、繕った古い履き
物を足にはき、古びた上着を身に着けた。彼らの食
糧のパンはみな乾いて、ぼろぼろになっていた。



【ギブオンの来訪】 ヨシュア9:6～8

彼らはギルガルの陣営のヨシュアのところに来て、彼とイスラエルの人々に言った。「私たちは遠い国から参りました。ですから今、私たちと盟約を結んでください。」

イスラエルの子らはそのヒビ人たちに言った。「おそらく、あなたがたは、私たちのただ中に住んでいるのだらう。どうして私たちがあなたがたと盟約を結べるだらうか。」

彼らはヨシュアに言った。「私たちは、あなたのしもべです。」ヨシュアは彼らに言った。「あなたがたは何者か。どこから来たのか。」



【ギブオンの欺き】 ヨシュア9:9～11

彼らは彼に言った。「しもべどもは、あなたの神、【主】の名のゆえにととても遠い国から参りました。主のうわさ、および主がエジプトで行われたすべてのこと、主がヨルダンの川向こうのアモリ人の二人の王、ヘシュボンの王シホン、およびアシュタロテにいたバシヤンの王オグになさった、すべてのことを聞いたからです。私たちの長老や、私たちの国の住民はみな私たちに言いました。『旅のための食糧を手にして彼らに会いに出かけなさい。そして彼らに、「私たちは、あなたがたのしもべです。今、どうか私たちと盟約を結んでください」と言いなさい。』



【ギブオンと結ばれた講和】 ヨシュア9:12～15

これが私たちのパンです。私たちがあなたがたのところに来ようと出た日、それぞれ自分の家で食糧として準備したときには、まだ温かかったのですが、今はご覧のとおり、干からびて、ぼろぼろになってしまいました。これがぶどう酒の皮袋です。私たちがこれらを満たしたときには新しかったのですが、ご覧のとおり破れてしまいました。これが私たちの上着と私たちの履き物です。とても長い旅のため古びてしまいました。」

そこで人々は彼らの食糧の一部を受け取った。しかし、【主】の指示を求めなかった。

ヨシュアは彼らと和を講じ、彼らを生かしておく盟約を結んだ。会衆の上に立つ族長たちは彼らに誓った。



【主への誓いの重み】 ヨシュア9:16～20

彼らと盟約を結んでから三日たったとき、人々は彼らが近くの者たちで、自分たちのただ中に住んでいるということを知った。そこでイスラエルの子らは出発し、三日目に彼らの町々に着いた。彼らの町々とはギブオン、ケフィラ、ベエロテ、およびキルヤテ・エアリムであった。

イスラエルの子らは彼らを討たなかった。会衆の上に立つ族長たちがイスラエルの神、【主】にかけて彼らに誓ったからである。しかし、全会衆は族長たちに向かって不平言った。族長たちはみな全会衆に言った。「私たちはイスラエルの神、【主】にかけて彼らに誓った。だから今、私たちは彼らに触れることはできない。私たちは彼らにこうしよう。彼らを生きしておこう。そうすれば、私たちが彼らに誓った誓いのために、御怒りが私たちの上には下ることはないだろう。」



【ギブオンへの呪い】 ヨシュア9:21～23

族長たちは全会衆に言った。「彼らを生かしておこう。」彼らは全会衆のために薪を割る者、水を汲む者となった。族長たちが彼らについて言ったとおりである。ヨシュアは彼らを呼び寄せて、彼らに言った。

「あなたがたは私たちのただ中に住んでいながら、なぜ、『私たちは、あなたがたからとても遠いところの者です』と言って私たちを欺いたのか。

今、あなたがたはのろわれる。あなたがたの中から、奴隷たち、私の神の家のために薪を割る者と水を汲む者が絶えることはない。」

■ イスラエルへの欺きゆえ、奴隷となったギブオン。

それでも命は守られた!



【ギブオンへの憐れみ】 ヨシュア9:24～27

彼らはヨシュアに答えた。「しもべどもは、はっきり知らされました。あなたの神、【主】がこの全土をあなたがたに与え、その地の全住民をあなたがたの前から根絶やしにするように、しもべモーセにお命じになったことを。それで私たちは、自分のいのちのことでああなたがたを非常に恐れ、このようなことをしたのです。

ご覧ください。今、私たちはあなたの手の中にあります。あなたのお気に召すように、お目にかなうように私たちを扱ってください。」

ヨシュアは彼らが言うようにし、彼らをイスラエルの子らの手から救った。それで彼らは殺されなかった。

ヨシュアはその日、彼らを会衆のため、また【主】の祭壇のため、主が選ばれる場所で薪を割る者と水を汲む者とし、今日に至っている。



ギブオンには最低限、主への恐れがあった。

主を恐れることが知恵の始まり。救いの入り口。

まとめと適用

主は、聖なる方であるということ
主をおそれ、御前にひれ伏そう



【唯一無二の聖戦・イスラエルのカナン征服】

- イスラエルのカナン征服は、神の聖なる戦い。義なる神の公正な裁き。
主に背き続けたカナンに、弁解の余地はない。
- 聖戦は、イスラエルにも徹底して聖なることを求める。
一つの背きも赦されない。その中でのアカンへの厳しい裁き。
➡これ以上に厳しい裁きの戦いは、主イエスの再臨の時にしかない!!
- 正しく聖書を学べば、聖絶の戦いの軽々しい適用などできないと分かる。
私たちに求められるのは、主をおそれ、御前にひれ伏すだけ。
- ヨシュアは、主をおそれずにはいられなかっただろう。

【イスラエルへのギブオンへの対応から学ぶこと】

■ エリコとアイで、主が命じられた戦い方は全く違っていた。

霊的戦いにハウツーはない。その都度、主に聞き従うことが求められる。

■ ギブオンの失敗は、イスラエルが主に聞かなかったこと。

それでもなお、ギブオンには、神の民の奴隷としての道が与えられた。

■ 主への恐れを抱くことが、救いにつながる道を開くと教えられる。

自分の無力さを思い知り、罪ゆえに打ち砕かれた人は幸いだ。

主は、打ち砕かれた魂をあなどられることなく、救いの道を示される。

【つまり私たち、主が繰り返して示されること】

■ 理不尽に思える苦難の中で、なぜ、と私たちは神に問う。

しかし、神がなされることを、どうして人が理解仕切れるだろうか？

■ 聖書が教える神は、果てしない憐れみと、厳正さを併せ持った方。

主がなされることならば、ひれ伏し、受け取る以外にない。それが恵み。

■ 主が私たちに望まれる一番のことは、主イエスの救いを受け取ること。

すべての時、あらゆる判断において、主に聞き従っていくこと。

■ 繰り返す失敗と悔い改めの中で、度重なる困難の中で、ヨシュアは、

思い知らされていったらう。神のきよさ、神の愛の深さ、広さを。

「天のお父さま。

わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

主よ、あなたのなされることは、私たちには、はかりしれません。

それでもなお、主よ、あなたは、思い知(し)らせてくださいます。

あなたの愛のはかりしれない、広さ、深(ふか)さを。

主をおそれ、主を愛し、主にのみ、従(したが)うものとしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。

アーメン」